

安西水丸とイラストレーション

——絵があつて、ぼくがいた。

M&L

Press Release 2026.8.6

Mizumaru Anzai: My illustrations, and there I was.



図版1.『安西水丸とイラストレーション——絵があつて、ぼくがいた。』展覧会ヴィジュアル（『春と修羅』）

会期：

2026年9月14日(月)

— 10月25日(日)

会場：

武蔵野美術大学美術館

展示室3・4・5

時間：10:00–18:00(土曜日、祝日、

特別開館日は10:00–17:00)

特別開館日：9月20日(日)、

10月11日(日)、10月25日(日)

休館日：9月27日(日)、10月4日(日)、

10月18日(日)

入館料：無料

このたび武蔵野美術大学 美術館・図書館では『安西水丸とイラストレーション——絵があつて、ぼくがいた。』を開催いたします。

緩やかな線と鮮やかな色彩のイラストレーションが広く知られる安西水丸は、1970年代半ばから漫画、絵本、小説、エッセイなど、ジャンルを越えて幅広く活躍しました。

当館では近年、本学の美術教育に資することを期して寄贈された、安西の生涯にわたる仕事の大半を成す原画の整理・調査を進めてきました。膨大な原画群からは、印刷物を通しては捉えきれない作家自身の手の痕跡を直接感じ取ることができます。同時に、それらはデザインと美術の領域のあわいで同時代の視覚文化を映し出す資料でもあります。

本展では、イラストレーター安西水丸としての活動初期から晩年に至るまでの代表的な仕事を軸に、村上春樹や嵐山光三郎との共作、さらに幼少期から大学時代にかけての作品や『ガロ』に連載された初期の漫画原稿など、13,000点を超える原画の中から厳選した約1,000点を展示し、その創作活動を概観します。

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館

特別協力：安西水丸事務所

協力：PLAY! MUSEUM

企画監修：白井敬尚(武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科教授)、

いとう 瞳(同油絵学科グラフィックアーツ専攻教授)

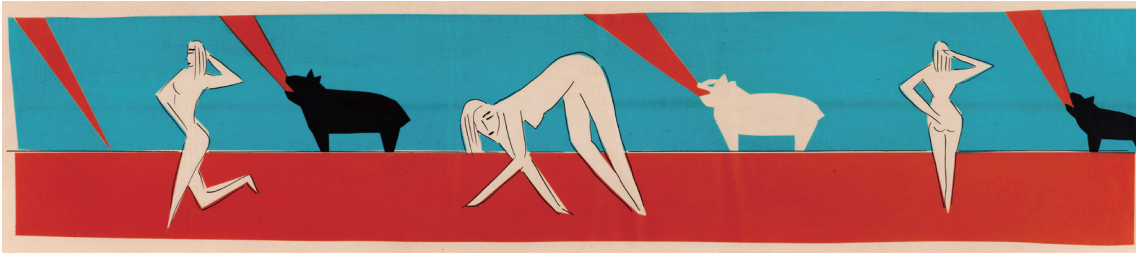
グラフィック・デザイン：杉下城司(杉下デザイン室)

会場構成：平川凌成建築設計事務所

■本展の見どころ

◆約13,000点の原画から厳選し、ほるぶ出版『日本の文学 近代編』全87冊の表紙原画など、代表的な仕事を一挙展示

ほるぶ出版の全集『日本の文学 近代編』全87冊の表紙や、1982年から1994年まで担当した『小説現代』の目次ページ、講談社の文庫情報誌『IN☆POCKET』など、安西水丸の代表的な仕事の原画をまとめて紹介します。膨大な仕事量を物語る原画の数々を通して、出版・雑誌文化のなかで広く求められ、描き続けた安西の活動の広がりを浮かび上がらせませす。



〔上〕図版2. 雑誌『小説現代』目次、講談社、1980年代



〔右〕図版3. 「普通の人」雑誌『宝島』JICC出版局、1982年

◆「グラフィック・デザイン」と「イラストレーション」という二つの視点から安西水丸に迫る

グラフィック・デザインや印刷文化については本学視覚伝達デザイン学科教授の白井敬尚が、イラストレーションについてはグラフィック・デザイン学科教授のいとう瞳が、それぞれの専門的見地から作品を考察します。原画を通して、印刷物からは窺い知ることのできない、安西水丸という一人のイラストレーターの手わざに肉薄します。



図版4. 雑誌『Qtai：週刊求人タイムス』装画
学生援護会、1983年



図版5. 小説『荒れた海辺』装画、新潮社、1993年



図版6. 「a day in the life」雑誌『チルチンびと』風土社、2007年

◆安西水丸と同時代に活躍したイラストレーターによるポスターを、美術館のコレクションから展示

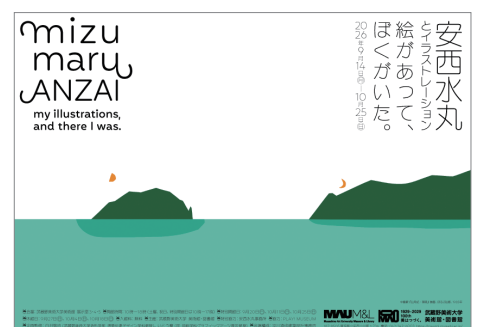
安西が活動を開始した1970年代は、多くのイラストレーターが登場し、雑誌や広告といった印刷文化を通じてその表現が広く社会に浸透していった時代でもありました。本展では、同時代に活躍したイラストレーターたちの作品を館蔵ポスターより選び、あわせて紹介することで、彼らの独創的な表現の総体が時代の雰囲気をも牽引し、華々しいイメージの形成の一端を担っていた様子を振り返ります。



図版7. 展覧会ヴィジュアル（『月に吠える・青猫』）



図版8. 展覧会ヴィジュアル（『三四郎』）



図版9. 展覧会ヴィジュアル（『山月記・李陵』）

■関連イベント

1.「イラストレーターズトーク：水丸さんから教わったこと、学んだこと」

日時：9月19日(土)14:00–15:30(13:30開場)

会場：武蔵野美術大学美術館ホール

出演：山崎杉夫、信濃八太郎、いとう 瞳

入場無料、先着順(予約不要)。直接会場へお越しください。

2. 関連教育普及ワークショップ「親子でゼロハン似顔絵」

日時：10月10日(土)13:00–15:00

会場：武蔵野美術大学美術館 展示室6

講師：堀 道広(漫画、うるし塗り)

当館Webサイトのイベントフォームよりお申込み。※応募多数の場合抽選。

※詳細は順次当館Webサイトで公開いたします。

■作家略歴

安西水丸(あんざい・みずまる)

東京都赤坂生まれ。幼少期を千葉県千倉町(現南房総市)で過ごす。日本大学芸術学部美術学科を卒業後、電通に入社し国際広告制作室に配属される。退社後ニューヨークのデザインスタジオ勤務を経て、平凡社に入社。アートディレクターを務めた後、81年に独立。イラストレーターとして活動を始め、晩年まで雑誌の表紙や挿絵、書籍の装画を数多く手掛けながら、漫画、絵本、小説、エッセイなどの自著も発表し続けた。代表的な著作に、漫画『青の時代』(青林堂、1980年)、村上春樹との共著『象工場のハッピーエンド』(CBS・ソニー出版、1983年)、小説『荒れた海辺』(新潮社、1993年)などがある。

■同時開催展覧会

「MIX WORKS —— tupera tuperaの仕事2002–2026」

会期：2026年9月14日(月)–10月25日(日)

会場：武蔵野美術大学美術館 展示室2、アトリウム1・2

お問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館

東京都小平市小川町 1-736

tel: 042-342-6003 fax: 042-342-6451

<https://mauml.musabi.ac.jp>

美術館広報担当

mail: prmsm@musabi.ac.jp

プレス用図版をご希望の方へ：

- ・下記の注意点を参照の上、ご希望の図版番号と、必要事項をEメールにてお知らせください。
(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・掲載図版が1点のみの場合は図版1.をお送りします。
2点以上の場合は、図版1.+ご希望の図版をお送りします。
- ・指定のクレジットを必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等でレイアウトをお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURLお知らせをお願いします。